

工作協議会 第一六回定期委員会

工作協議会事務長 山内 美喜男

工作協議会第一六回定期委員会は、三月一三日(土)一四時から一四日(日)一時まで、鎌倉の地「ホテルメッツかまくら大船」で開催されました。また並行して第四三回工場・車両所代表者会議も開催しました。委員会は、渡辺副議長の開会挨拶で始まり委員会議長に増田静治委員(東京)を選出しました。

工作協議会を代表して小池議長代行は、要旨次の様に挨拶をしました。「不採用事件の最高裁判決」後の闘い、「車両メンテナンス近代化第三期」提案後の取り組み、北海道内における組織問題、議長代行になった経緯について等述べ最後に工作労働者の総団結と各工場・車両所の協力を訴えました。

次に東日本本部を代表して山根法対部長から情勢報告を含め挨拶をいただきました。要約しますと①最高裁判決後の政府に決断を迫る具体的行動②予定していなかった安全計画を出す事になった背景③会社の今後の施策④本社と本部間交渉から支社への移行⑤賃金交渉等です。東日本本部からは、藤野副委員長も途中から出席され、イラク派兵や年金等の政治問題、革マルの動向、大事故連続発生での改善命令、ニューフロンティア21施策の前倒し目標達成、賃金アンケート集約結果等にふれ挨拶されました。その後、山内事務長から、経過報告と活動方針(案)が提起されました。休暇後、各工場・車両所報告と経過・方針(案)に対する質疑討論があり発言は、全委員・代議員からありました。

発言内容を要約しますと、①「車両メンテ」と工事量の両方の提案を受けた支社と「工事量」・「車両メンテ」どちらかのみ提案の支社②科体制の変更及び直外区分の見直し③新採の教育で一年間研修終了後に他支社との取り扱いの違い④タクト方式(一両流し)導入や地域間異動の問題⑤組織の大量脱退からの反省⑥工場での交検実施⑦新車製作の中のピッチーから〇・九への変更⑧工場機能廃止提案を受けて、職場共闘と地域の「守る会」を結成し、廃止反対行動の取り組み⑨貨物会社の劣悪な労働条件の状況等リアルに出されました。

「車両メンテナンス近代化」と工事量等に関する質問や意見が多く出され、これらに対しては、藤野副委員長から答弁や考え方が示され、全体として承認・決定されました。

山内事務長から何点かの事項について提起をしました。一、住所録作成 二、提案資料の送付 三、各工場・車両所の連絡体制 四、第四四回代表者会議の時期について提起し了承されました。

工作労働者の最大の使命は、「安全・安定輸送確保」のため、品質の高い車両を利用者に提供することです。私達は、技術・技術の向上、教育の充実と健康で働らきやすく、働らき甲斐のある職場環境をめざしその使命を果たす事です。二日間の討論の中でこの事を再確認しました。最後に、委員会成功のため御尽力いただいた各位に感謝申し上げ報告と致します。

工作協議会

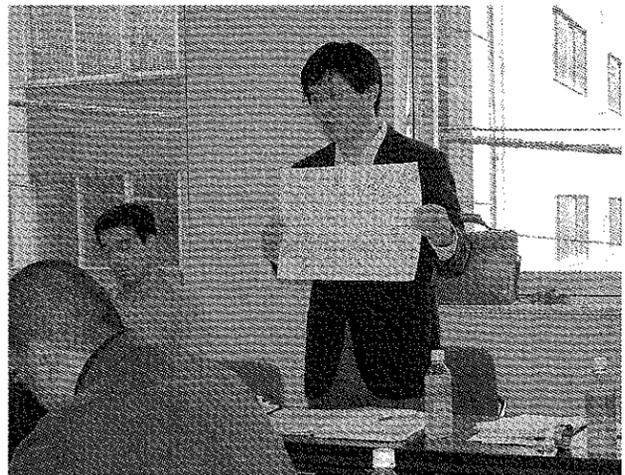
- 議長 長 小池 敏哉 (東京) 大井工場
- 副議長 長 渡辺 歳央 (仙台) 仙台総合車両所
- 事務 長 山内 美喜男 (東京) 大船工場

運輸協議会 第一五回定期委員会

運輸協議会事務長 茂木 博

運輸協議会は通常秋に定期委員会を開催していますが、昨年五月に第三期車両メンテナンス近代化計画の提案を受けたため、この事案の本部・本社間での整理がつくまでの間は延期することにしています。

今年に入ってから二月二〇日に開催された定期委員会は、この



「車両メンテ第三期」を中心に議論がすすめられました。執行部も入ってのエリア対策会議、工作協との要求討議とそれを通じての交流の深まり、東京に設置された事務局会議におけるデータ収集と分析の積み重ね等、協議会としてこれまでになく活発な経験がされたことが報告され、今後

の検証と見直しに向けた留意点も強調されました。

しかし!!それにしては本部・本社間の交渉の遅れもさることながら、四月一日から実施だというのに三月二七日の時点で未だ横浜、大宮の二支社が提案すらしないという会社の計画のズサンさをどう考えるべきでしょうか。その後、横浜は三〇日に(しかも説明!!)、大宮に至っては三一日の実に一九時に提案という、ただなんとしても年度内という体裁だけをつくらうたという有様でしたが、二月提案の東京支社ですら四月実施を三月二六日の時点で六月実施に延期するなど、事案の権威はボロくで、「会社はどうした!!」と言いたくなるほどです。

私達は定期委員会での議論を土台に、安全安定輸送を支える車両職場、会社提案の言葉通りの「トータルに車両を把握出来る」研修チームの確立のため新たな決意で検証や点検、交流を強化していかなければなりません。

定期委員会では他に、輸送指令のあり方、団交の経緯や年休が一人も入らない日が月に五〜六日あったり、そのため特休を買い上げたりなどの貨物会社の「すさまじい欠員状況」、運転台背面カーテンをめぐる水戸支社での処分、昨秋の中央線高架切替工事トラブルでの運転現場の実態、新幹線職場間での交流及び要求討議、組織問題にゆれる北海道の運転職場の状況、東労組の現状等が地方から、あるいは様々な角度から議論されました。

また、組織を増加させている全国連絡会の現状と、更に発展に向けた取り組み強化が確認されました。

役員は議長、事務局長は留任、九名の副議長のうち四名が新旧交代しました。(近日予定も含む)



「第三期車両メンテ近代化計画」を中心に議論を進めた運輸協第15回定期委員会

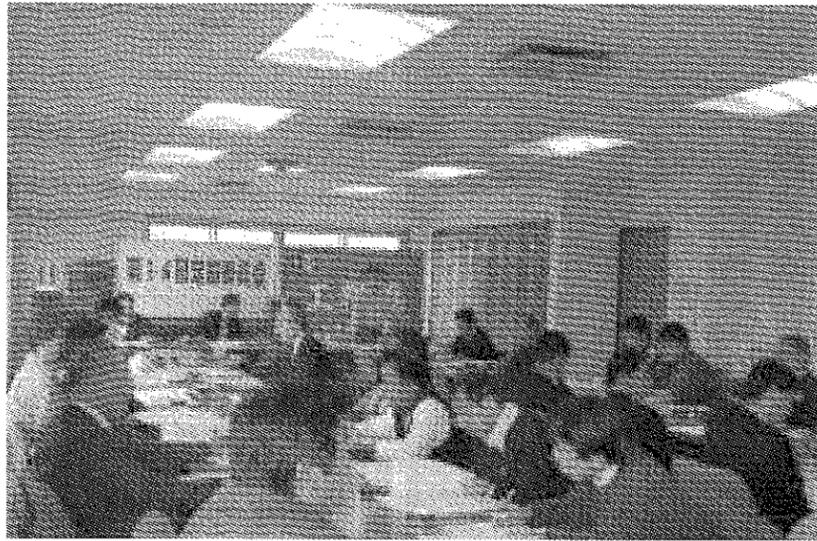
運輸協議会

- 議長 長 茂木 博 (東京) 田町運転区
- 副議長 長 盛田 憲一 (盛岡) 青森運転所
- 事務 長 坂本 秀也 (東京) 小牛田運転区
- 事務 長 武笠 也 (東京) 新潟新幹線第一運転所
- 事務 長 坂本 秀也 (東京) 高崎運転所
- 事務 長 武笠 也 (東京) 水戸運転区
- 事務 長 武笠 也 (東京) 習志野運転区
- 事務 長 武笠 也 (東京) 三鷹電車区
- 事務 長 武笠 也 (東京) 松本電車区
- 事務 長 武笠 也 (東京) 田町電車区

工務協議会 第一五回定期委員会

工務協議会事務局長 大津 幸夫

東日本工務協議会は、第一五回定期委員会を昨年一月一日～五日に「サンライフ横浜」で開催した。定期委員会は町田副議長の司会で始まり、議長に高橋委員を選出後、伊藤エリア本部書記長の挨拶を受け、大津議長より「事故統発はメンテナンス合理化が原因であり、労働組合のチェック機能がますます大切になっている。経験を出し合い、専門職協の立場から点検を強めよう。」と訴え、宮崎事務長の経過報告と方針提起後、各地方より報告を受けた。「JR本体では管理者のミスも多発、連夜が月四回入った出向者もいる。研修グループにも拘わらず、工事の夜業が半分も。JRの時は四〇名で検査していた所を今はパートナー会社で一〇名だ。日勤もなく体がたない。」「省力化軌道工事でのバケット衝突事故についてだが、軌道工事管理理者でも、個々の動きは掴みきれない。線路閉鎖目一杯で、見張り体制で作業をやったことも。バケット事故の次の日も夜業の準備をしるという等、恐ろしい状況。教育も皆無で下請けの人に教わっている。勤務も二連夜、三連夜があるし、夜間指定時間六時間で日中八時間より二時間足りないからその分、非番日に働けと言われる。一四年度は夜業一三六回の人もいる。」



2003. 11.14～15「サンライフ横浜」で開催された工務協第15回定期委員会

本なくて一日間列車が三〇km/hで走っていた。LEDと列車の衝突事故も発生。「出向者アンケートに基づき見直し要求。スイッチマルチグループ五名にされ大変で、抗議に対し、プロパー育成との回答。」

「夜業時の苦情も多く、線閉のついで作業も多発。口ツク調整を一名でやれと言

われ抗議。」「碎石取り卸しで二箇所踏切を飛び回った。」「バケット事故で、当夜の責任者と補佐の人に強制異動。」「担当エリアが広すぎ、総合監視時に個別検査や臨時検査が組まれた。」「工事グループでは連夜等で月一五回とか一八回の夜業が教育もなくやらされている。パートナー会社では見習いなど一回有ればいい方だ。」「機械グループで月四回の特休買い上げ。」

「仙建ではヘルメットに三枚のシール。安全パトロールの時にミスすると一枚ずつ剥がされ、最後の赤シールが剥がされると一ヶ月の資格停止。」「仮眠設備もなく三～五連夜。寝袋を持ち込み寝る。」等々、二二名よりさまざまな実態が報告された。

↓字数の関係で全ては原稿報告できず!

その後、議長集約で「バケット衝突事故など、メンテナンス合理化によって起きたと言っても過言ではない。勤務問題や教育。技術継承など大きな問題となっており、すでに会社に提出してある申二九号、三〇号を通じた会社主張の検証が必要だ。いまこそ『抵抗なくして安全なし。安全なくして労働なし』を一人一人が噛み締め、全体的結果を図ることが大切。出向復帰問題は全員がJRに戻ると言う決意の下、個々の希望を尊重した機関含めての取り組みを強めたい。」と集約され、各地方での更なる引き続き奮闘をお互いが決意しあい、役員改選の後終了した。

工務協議会

議長	大津 桂一 (水戸)	土浦保線技術センター
副議長	町田 建三 (東京)	関東保全技術センター
	若松 正純 (盛岡)	八戸保線技術センター
	久米 竜一 (秋田)	ユニオン建設秋田営業所(出向)
	遊佐 貞明 (仙台)	小牛田保線技術センター
	江端 隆男 (新潟)	鉄建建設亀田事務所(出向)
	湯浅 米治 (高崎)	高崎保線技術センター
	渡辺 隆義 (水戸)	東鉄工業水戸出張所(出向)
	青柳 庸弘 (千葉)	交通建設大綱営業所(出向)
	高橋 吉一 (東京)	小田原保線技術センター
	藤澤 安男 (長野)	第一建設長野事務所(出向)
	室岡 征二郎 (東京)	清水建設(出向)
事務次長	小出 幸夫 (千葉)	ユニオン建設田端出張所(出向)
事務	大津 幸夫 (東京)	千葉保線技術センター管理
	吉野 隆 (千葉)	西船橋保線技術センター
	島崎 敏文 (東京)	東鉄工業品川出張所(出向)
	若林 春三 (東京)	東鉄工業市ヶ谷建築支店(出向)
	渡辺 良明 (東京)	ビルテック上野事業所(出向)
	大山 正明 (東京)	東鉄工業東京総合工事所(出向)
	日野 吉政 (仙台)	東北工事事務所仙台工区
	真屋 春人 (仙台)	郡山新幹線保線技術センター
新幹線分科長	中田 光雄 (東京)	新橋保線技術センター

電気協議会 第一六回定期委員会

電気協議会議長 斉藤 照明

二月一三、一四日一三時より東京晴海海員会館で開催しました。委員会の討論時間だけでは不十分なので、泊り体制で翌日も自主交流会を日程的に入れました。各地方や各分科会からの報告、問題提起を頂きました。



組織拡大に向けて討論を深めた電気協議会第16回定期委員会

議論は、夜の懇親会、翌日の交流会まで引き継がれました。議論の中心は、出向者が今年で三年目を迎えること。中央線高架化に伴う事故。京浜東北線の衝突事故と三点に集中する形でした。

出向者三年目の問題、曖昧な態度はとらないこと、意思統一をすることが確認されました。それと協力会社へ残るという要求をたてた人、元職場・元職種へ戻せと要求をたてた人も、JRは「国労からの脱退」という攻撃をかけてきていることも明らかになっています。国労で何故闘い続けるのかを今日の情勢で再確認することの大切さを共通の認識とすることができました。

そして今回の委員会の中心は、「設備メンテ」の柱の一つであった信号技術者認定の問題です。工事等の丸投げを今後実施するための「認定制度の導入」であると言っている認識は一致していました。中央線高架化の事故は、「認定制度」に問題があるという認識は一致しました。国労との団体交渉を誠意ある態度で行なわなかった問題点はある事。交渉の結果として国労は、JR側は立ち合うだけというのが当時の認識でした。国労の要求の根拠は、人の命を預かっている信号設備の「使用開始判定」は、JR側が責任を持つて行くべきであるという主張が正しかったと思います。私達の主張を言い続けることを再度確認することが出来ました。

電気協議会はJR・施工・メーカー側と三者の能力低下を指摘

三月二十八日、シニアワーク東京で第十五回定期総会が代議員・傍聴者およそ四十人を集めて開催されました。

冒頭、北村副会長の司会で議長に新潟地連の大桃啓子代議員を選出しました。阿部会長による挨拶の後、東日本本部佐藤執行委員長から国労を取り巻く情勢と課題について、問題提起を含めた挨拶をいただきました。

その後、全国連合会大貫事務局長からの来賓挨拶をうけ、阿部会長から二〇



左から阿部会長、北村、伊藤、佐藤、北沢、青柳、田村各副会長/清水副会長は都合により欠席

家族会東日本連合会 家族会もがんばるぞー! 第二五回定期総会

- ### 電気協議会
- | | | |
|-----|-------------|-----------------|
| 副議長 | 長 齋藤照明 (東京) | 東京変電技術センター |
| 副議長 | 長 伊藤政利 (秋田) | 日本電設・秋田(出向) |
| 事務 | 岸 三男 (高崎) | 桐生電力メンテナンスセンター |
| 事務 | 木幡忠幸 (水戸) | いわき電力メンテナンスセンター |
| 事務 | 手塚賢一 (東京) | R・B工装東京事業所(出向) |
| 事務 | 高橋 広 (東京) | 大船電力メンテナンスセンター |

この説明会における国労組合員の姿勢や姿に、他の人達が国労の指摘が「正しい」ことを支持しました。これは小さな成果だと思いません。こうした小さな活動を私達は職場を中心に積み上げることでないかと思えます。

電気協議会としても職場における小さな世話役活動を通して組織拡大に繋げていきたいと思えます。

この説明会には、不幸中の幸いであったと思いますが、私達国労電気協議会へ大きな課題・問題を投げ掛けたと思えます。委員会の議論は、各代表が共通の視点に立ち、各地区の実態をキチンと把握して闘い続けることが大切であることが確認できた委員会でした。

委員会後に本社が国土交通省改善命令に対する回答書を提出しました。翌日、上野・田端間の信号設備で事故が発生しました。この事故の背景には、信号技術者認定制度だけではなく、設計、設備管理システム、工事管理とそれぞれの部門別に問題があることも少しづつ明らかになってきました。

JR会側は急遽「研修」を行い能力評価の試験を行いました。合格できない人がいるという話が出てきています。多くの問題点を残しながら、全職場で改めて説明会が行われました。説明内容が「設備メンテの合理化提案の主旨を逸脱している」事を指摘してきました。

僕のがん保険は、病気もケガも保障する。

しかも、保険料は生上から安い保障が一生つく。がん保険を滞るなら、アメリカンファミリーです。

健康応援団MAX 終身タイプ

21世紀がん保険 特約MAX21

◎詳細はパンフレット、ご契約のしおり 約款をご覧ください。

〈引受保険会社〉
自信があります。私の医療保険。

AFLAC アmericanファミリー生命

東京第三営業本部 第三支社 ☎03-3344-1889
〒163-0456 新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル

■募集代理店
アベニール 株式会社
☎03-3437-6810 03-3437-6822
〒105-0004 港区新橋5-15-5 交通ビル3F

AFN広告-2003-016-0402052 2月21日

- ### 家族会東日本連合会役員
- | | |
|-----|---------------|
| 副会長 | 長 阿部 洋子 (仙台) |
| 副会長 | 長 伊藤 美枝子 (盛岡) |
| 副会長 | 長 北村 幸子 (秋田) |
| 副会長 | 長 北村 江利子 (新潟) |
| 副会長 | 長 佐藤 菊江 (高崎) |
| 副会長 | 長 清水 祐美子 (水戸) |
| 副会長 | 長 青柳 三枝子 (千葉) |
| 副会長 | 長 青柳 美 (東京) |

〇三年度の経過報告、佐々木副会長からは二〇〇四年度活動方針の提案をうけました。

次いで質疑応答を経て経過報告、活動方針ともに承認され、渡辺副会長によるスローガンの確認後、新旧役員挨拶を受け第十五回定期総会を終了しました。

今総会の明るい話題は、活動停止状態となっていた長野から、総会に代議員三名を送り出していただいたことです。長野では四月十日に再建総会を開催することになっています。

昼食後、恒例となっている交流会を北沢・田村両副会長の司会で開催しました。

交流内容としては、各地方連合会の現状、活動内容や悩み、課題などを出し合いました。その中で、共通して言われたのは、①地方家族会の役員も夫たちの高齢化にあわせて高齢化し、次の役員の担い手がなかなか見つからないこと。②自宅へ電話しても「家族会です」の一言で敬遠されてしまい、辛い思いをしながらも何とか頑張っている、③社宅の出入りもあり、誰が国労の組合員かわからない。その都度名簿が欲しい。④家族会だけの努力では限界もあり、国労機関の協力を更にいただきたい、というものでした。

一方、国労主催の運動会やバスツアーなどのレクリエーション、メーカーなどに家族会も積極的に参加して夫たち組合員と一緒に歩む努力をしているとの報告も出されました。

交流会の最後に佐藤東日本執行委員長からは、国労機関としても家族会に対して協力を惜しまず続けていく、との発言をいただき全ての日程を終了しました。



各地から参加の代議員・傍聴者のみなさん